

ニュース分析 & まとめ

2025年7月



続きを読む

注：以下の内容は、特定の個人または法人の状況に対応することを目的としたものではありません。また、本書類の受領日時点で情報が正確であること、あるいは今後も引き続き正確であることについて、何ら保証するものではありません。



GRANT THORNTONインサイト

ベトナム経済は、2025年の最初の7か月において力強い勢いを維持しています。年初の好調な滑り出しを受け、GDP成長率は7.52%に達し、過去15年間で最も速いペースになっている。対外直接投資（FDI）もこの7か月間堅調で、240.9億米ドルを呼び込み、前年同期比で27.3%の増加となり、主に製造業と不動産に向かっています。貿易取引額は5,147億米ドルに達し、輸入が増加する中でも101.8億米ドルの貿易黒字を維持しました。これらの結果は、世界的な不確実性の中でも経済の底力を反映しています。

一方で、今後の道筋は機会とリスクの両面によって形作られます。米国政府がベトナム産輸出に対する関税を当初発表の46%から20%へと最終決定したことは貿易摩擦の緩和を示すものの、従来水準より高い基準が残ったことで輸出業者には新たな圧力がかかります。衣料・繊維、電子機器、木材製品などのセクターでは受注の鈍化が特に懸念されます。ベトナムの課題は、これらの一時的な逆風を構造調整の契機へと転換することです。そのためには政策対応が決定的となります。消費・投資・輸出の成長を支えるために、公共投資の前倒し、的確な税制上の支援、行政手続きの簡素化を加速する必要があります。同時に、ホーチミン市やダナンにおける国際金融センターの整備など長期的な取り組みは、資本市場の深堀り、高品質なFDIの誘致、生産性の向上を目指すものです。短期的な成長の勢いを持続可能な構造的成果に結びつけるには、これらの改革を市場のダイナミクスと整合させることが不可欠です。

今後数か月は極めて重要です。短期的な景気刺激と構造変革のバランスの取り方が、年内およびそれ以降のベトナムの経済軌道を左右する可能性が高いでしょう。



続きを読む

1. ベトナム、2025年の成長目標（8.3~8.5%） 実現に向けた措置を実施

ベトナムは、政策措置と戦略的イニシアティブを組み合わせ、**2025年のGDP成長率目標である8.3~8.5%の達成に積極的に取り組んでいます。**2025年前半は経済が**7.52%**成長し、**15年ぶり**の高い上半期成長となり、強い対外投資の流入と安定したマクロ経済環境がこれを支えました。野心的な目標を達成するため、政府は投資、消費、輸出という主要な成長ドライバーに注力し、より一層の税制緩和や公共投資の支出加速を進めています。これらの取り組みを支援するため、各省庁や地方には制度上のボトルネックの排除、政策実行力の向上、特に米国との貿易交渉を含む貿易協定の調整が求められ、輸出圧力の緩和が図られています。**Pham Minh Chinh**首相は成長目標は「不可能ではない」と述べ、決意を持って追求すべきであり、長期的発展への必要な一歩だと位置付けています。

（出典：VietnamPlus）



続きを読む

2. 米国、ベトナム輸入品に対する関税を正式に20%に引き下げ

米国は8月1日、Donald J. Trump大統領が署名した大統領令に基づき、ベトナムからの輸入品に対する正式な関税率を当初発表の46%から20%へと引き下げることを発表しました。この調整は、69の国と地域に影響を与える貿易条件の包括的な見直しの一環です。ベトナム商工省（MoIT）は、双方が相互貿易協定に向けた交渉を継続しており、米越包括的戦略的パートナーシップの下で経済・貿易・投資関係を強化することを目指していると確認しました。4月以降、ベトナムと米国は技術レベルのやり取りから閣僚級の高官交渉まで、二国間関係の推進を目的とした一連の貿易協議を積極的行ってきました。上半期（1～7月）における二国間貿易額は956億米ドルに達し、うちベトナムの輸出は851億米ドル、輸入は105億米ドルでした。

（出典：Vietnam Economic Times）



続きを読む

3. AMRO、ベトナムの2025年成長予測を上方修正 — H1の好調を受けて

ASEAN+3マクロ経済研究事務所（AMRO）は、2025年のベトナムのGDP成長率見通しを従来の6.5%から7%へと上方修正しました。これは、上半期の予想を上回る経済実績を反映したものです。ベトナムは2025年前半に7.52%の成長を記録しており、これは堅調な国内消費、回復力のある輸出活動、製造業とサービス業の継続的成長によるものです。見通しの根拠としては、投資環境やインフラ効率の改善を目指す構造改革の継続が挙げられます。これらの取り組みは生産性を押し上げ、資本を呼び込み、経済の回復力を支えるのに寄与しています。AMROはまた、域内統合の深化がベトナムの対外投資に対する魅力をさらに高め、長期的な成長を後押しする可能性があるとは指摘しています。AMROは、世界的な不確実性の中でのベトナムの安定性と競争力が成長の勢いを支えていると強調しています。

（出典：Vietnam Economic Times）



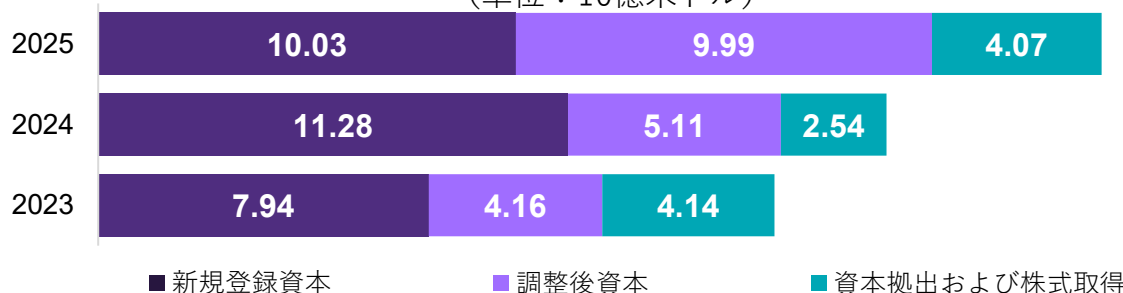
続きを読む

4. ベトナム、2025年7月までFDIの強い勢いを維持

ベトナムは2025年1月～7月において外国直接投資（FDI）で240.9億米ドルを誘致し、前年同期比27.3%増となりました。払込資本（実行資本）は136億米ドルに達し、8.4%増で、7か月累計としては5年ぶりの最高額でした。総登録資本のうち、新規許可プロジェクト2,254件から100.3億米ドルが計上され、件数は15.2%増だったものの金額は11.1%減となりました。一方で調整後資本は95.3%増の99.9億米ドルへ急増しました。出資や株式取得による資本移動も1,982件の取引で40.7億米ドルに達し、61%増加しました。

2023年～2025年のベトナムへの7か月間の外国直接投資（FDI）資本の内訳

（単位：10億米ドル）

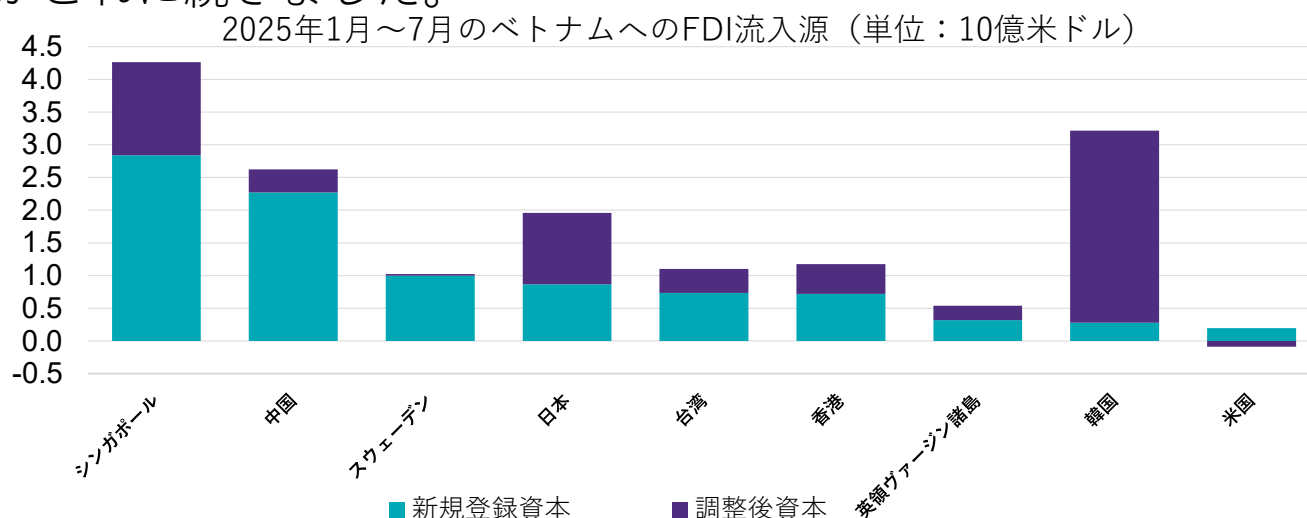


↓ 続きを読む

（出典：VietnamPlus）

4. ベトナム、2025年7月までFDIの強い勢いを維持（続き）

FDIはベトナムの21の経済分野のうち18分野に流入し、その中で製造・加工業が121.2億米ドル（60.6%）で首位を占め、不動産業が49.5億米ドル（24.7%）で続きました。2025年最初の7か月間には、74か国・地域が新規プロジェクトを登録しました。シンガポールが28.4億米ドルでトップとなり、中国（22.7億米ドル）、スウェーデン（10億米ドル）、日本、台湾、香港がこれに続きました。



続きを読む

（出典：VietnamPlus）

5. 輸入急増にもかかわらず、ベトナムは貿易黒字を維持

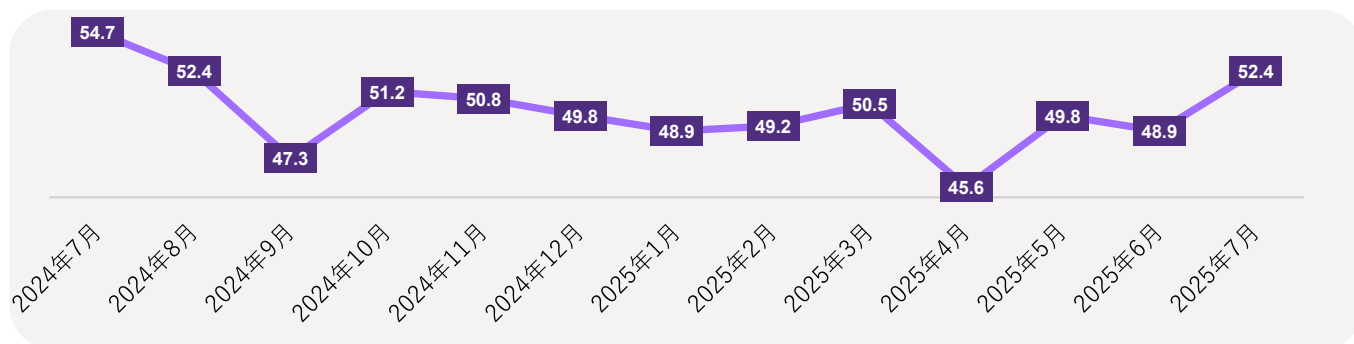
国家統計局（NSO）によると、2025年最初の7か月間におけるベトナムの貿易額は5,147億米ドルに達し、前年同期比16.3%増となりました。輸出は14.8%増の2,624億4,000万米ドル、輸入は17.9%増の2,522億6,000万米ドルとなり、101億8,000万米ドルの黒字を記録しました。輸出の88.6%を加工工業製品が占め、輸入の93.8%を生産資材が占めました。ベトナムは米国、EU、日本との間で引き続き貿易黒字を維持した一方で、中国、韓国、ASEANとの間では貿易赤字となりました。



6. 7月のベトナム製造業は回復傾向を示すも、関税が見通しに影響

ベトナムの製造業は7月に回復の兆しを見せ、S&Pグローバルの購買担当者景気指数（PMI）は6月の48.9から52.4へと上昇しました。国内需要の回復により、4か月ぶりに新規受注が増加し、生産や購買活動を押し上げましたが、米国の関税の影響で輸出受注は引き続き減少しました。企業は原材料不足に直面し、納期遅延や2025年に入って最も速いペースでの投入コスト上昇を経験し、それに伴い販売価格もわずかに上昇しました。将来の生産量について企業は引き続き楽観的であるものの、関税への懸念から自信は3か月ぶりの低水準となりました。

ベトナム購買担当者景気指数（PMI）



続きを読む

（出典：S&P Global）

7. ベトナム、2025年末までに金融センター開設へ

Pham Minh Chinh首相が最近署名した決定に基づき、ベトナムは2025年末までにホーチミン市とダナンに国際金融センターを開設する計画です。本計画は、長期的な資本調達や海外からの資金・技術・専門知識の誘致のための基盤を構築することを目的としています。また、規制の整備や輸送・物流ネットワークから5G接続やスマートシティシステムに至るまで、物理的およびデジタルの両インフラ開発を推進することも盛り込まれています。ホーチミン市では793ヘクタールを金融センター用地として割り当て、5Gネットワークやスマートシティシステムといったソフトインフラを整備する一方、ダナンはデジタルインフラやブロックチェーンを活用したサービスの開発に重点を置きます。計画における優先事項には、フィンテックの規制サンドボックス制度の試行、商品市場の高度化、人材育成などが含まれており、国会決議第222/2025/QH15と整合しています。

(出典：Vietnamnews)



続きを読む

8. EVFTA発効から5年、ベトナムとEUの貿易額は3,000億米ドルに到達

EU-ベトナム自由貿易協定（EVFTA）の発効から5年を経て、ベトナムとEUの双方向貿易額は約3,000億米ドルに達しました。本協定により、ベトナムはASEANにおけるEUの最大の貿易相手国、そして世界全体でも第16位の貿易相手国としての地位を確立しました。発効以来、関税の70%以上が撤廃され、今後数年以内に最大99%まで削減される見込みです。関税自由化にとどまらず、EVFTAは市場アクセスの改善、規制の透明性の向上、知的財産権の強化にも寄与しました。さらに、電子機器、繊維、家具、農産食品といった主要分野におけるベトナムの輸出拡大を支援する一方で、欧州からのハイテク機械、医薬品、グリーン技術の輸入を促進しました。この節目は、EVFTAが安定した貿易関係の推進と、ベトナムのEU市場への統合深化に果たす重要な役割を改めて示しています。

（出典：Vietnamnews）



続きを読む

9. ベトナム、世界第2位のコメ輸出国に

ベトナムは**2025**年上半期において、タイを抜いて世界第**2**位のコメ輸出国となり、インドに次ぐ順位となりました。1月から6月にかけて、ベトナムは**472**万トンのコメを輸出（前年同期比**3.5%**増）したのに対し、タイは**27.3%**減の**373**万トンにとどまりました。7月だけでも輸出量は**75**万トン、金額にして**3億6,610**万米ドルに達しました。2025年最初の7か月間で、ベトナムのコメ輸出は**550**万トン（前年同期比**3.1%**増）となりましたが、価格下落の影響で輸出額は**28億1,000**万米ドルと**15.9%**減少しました。フィリピンが依然として最大の輸出先で、輸出額全体の**42.6%**を占めました。アフリカ市場向けの輸出も急増し、ガーナ向けは**53.5%**増、コートジボワール向けはほぼ倍増しました。最も劇的な増加を見せたのはバングラデシュで、輸出額は**188**倍以上に跳ね上がりました。一方、最も大きな減少を記録したのはマレーシアで、**58.5%**減となりました。

（出典：Vietnam Economic Times）



続きを読む

10. ベトナムの対米輸出、今後数か月で減速の見通し

専門家によると、**2025年後半から2026年前半にかけて**、ベトナムの木製品や繊維製品の対米輸出は減速すると予想されています。貿易促進局の**Vu Ba Phu**局長は、**8月1日**に米国が**20%**の相互関税を導入する前に、木製家具、繊維製品、食品の出荷が急増し、輸出総額は**709億1,000万米ドル**（前年同期比**28.6%**増）に達したと述べました。同氏は、高水準の在庫やコスト上昇が今後数か月の輸出減速要因となる可能性を警告するとともに、リスク低減と中小企業支援のための新しい貿易モデルの必要性を強調しました。**Thanh Cong Textile-Investment-Trading JSC**の**Tran Nhu Tung**氏は、多くのバイヤーが関税導入前に前倒しで発注したため、第3四半期の需要は弱まると予想されると指摘しました。**2025年上半期**の世界におけるベトナムの繊維・衣料輸出**218億米ドル**のうち、米国向けは**175億米ドル**を占め、前年同期比**17%増**となりました。

（出典：TheInvestor）



続きを読む

お問い合わせ



仁科 仁

Jin Nishina

Director / CPA

T +84 906 719 178

E Nishina.jin@vn.gt.com



谷口 雅宣

Masanobu Taniguchi

Director / CPA

T +84 358 177 966

E masanobu.taniguchi@vn.gt.com